TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS 東北大学災害科学国際研究所

東北大学グリーン未来創造機構シンポジウム＆BOSAI 人材育成プログラムを開催しました（2025/7/11.12）

テーマ：FUKUSHIMA，浜通り，BOSAI 人材育成
会　場：南相馬市民文化会館「夢はっと」・大熊町産業交流施設 CREVA おおくま

2025 年 7 月 11 日（金）に南相馬市民文化会館「ゆめはっと」にて、翌 12 日（土）には大熊町産業交流施設「CREVA おおくま」にて、東北大学グリーン未来創造機構シンポジウム＆BOSAI 人材育成プログラムを開催しました。本学が推進する「FUKUSHIMA サイエンスパーク構想」の中核をなす本取り組みには、当研究所の教職員も企画・運営に深く関わっており、両日、学生・教職員・自治体関係者・企業・地域住民など多くの参加者が集いました。

本プログラムは、東日本大震災の教訓を未来に活かし、複雑化する災害や社会課題に対応できる人材を、福島浜通りを拠点に育成・輩出することを目的としています。将来的には福島国際研究教育機構（F-REI）との連携も視野に入れた、開かれたプラットフォームを目指すものです。

南相馬市および東北経済連合会との共催で行われた初日は、今村文彦教授（津波工学研究分野）が湯上浩雄理事・副学長（グリーン未来創造機構長）の開会挨拶を代読して始まりました。さらに、「FUKUSHIMA サイエンスパーク構想」の背景・目的、現在の活動と将来について報告しました。南相馬市からは、復興の現状と発展に向けた取り組みが紹介され、人口減少や高齢化といった課題に対し、福島イノベーション・コースト構想を軸とした新たな産業集積や移住・定住促進を進めている現状が共有されました。

続いて、本学の研究者から、田所諭特任教授（災害対応ロボティクス研究分野／タフ・サイバーフィジカル AI 研究センター）より災害対応ロボットや半導体技術に関する最新の研究成果が報告され、また公共政策大学院の学生等が復興まちづくりに関する研究を発表しました．これらは、地域の課題解決に直結するポテンシャルを持つものであり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

大熊町の共催で行われた２日目は、当研究所の柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）よる挨拶の後、町のゼロカーボンに向けた先進的な取り組みや、新しい教育を実践する義務教育学校「学び舎 ゆめの森」の活動が紹介されました。参加者は、ゼロからのまちづくりに挑む現場の息吹と、未来を担う子どもたちのための創造的な教育実践に触れました。ワークショップでは、齋藤玲助教（認知科学研究分野／情報科学研究科）から「BOSAI 人材育成プログラム」の全体構想が提示されました。このプログラムは、誰でもどこでも学べるオンライン教材を初級編の軸とし、中級・上級編では現地でのフィールドワーク等を組み合わせることで、深い学びへと繋げるものです。参加者からは、プログラムの内容や、企業や自治体での活用方法、地域住民との連携のあり方などについて、多様な視点から活発な意見が交わされました。

2 日間にわたる本イベントは、福島浜通りが直面するリアルな課題と、大学が持つ最先端の知見、そして多様な参加者の熱意が交差する、まさに「共創」の場となりました。災害からの復興は、単に元に戻すことではなく、新たな価値を創造し、よりレジリエントで持続可能な社会を築くプロセスです。当研究所は、災害科学の知見を基盤として、この「BOSAI 人材育成プログラム」を引き続き強力に推進します。現場での学びと多分野の連携を重視し、福島の復興、ひいては世界の防災・減災に貢献できる人材の育成に尽力してまいります。

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

（次頁へつづく）

今村教授による話題提供

１日目登壇者

２日目登壇者

ワークショップの様子